本　賞

佐　伯　邦　夫 氏

１９３７年魚津市に生まれる。魚津市大海寺新在住。
魚津西部中、魚津高校、桜井高校、泊高校等で35年にわたり教職に就く。
傍ら登山、スキー、写真などを通じ郷土の山河に広く親しむ。

“歩くスキー教室”を主宰、棚山、新川牧場、桃山運動公園、東福寺野等々、多くの山野スキーの新コースを紹介、冬季スポーツの振興に多大な貢献を果たしました。

また、魚津岳友会、魚津山岳協会、富山ヒールフリースキー協会会長、日本テレマークスキー協会理事、同顧問なども歴任。後進の育成啓発に尽力されています。

僧ヶ岳の片貝川コースの開設に携わり、その後も維持管理、登山会の実施を継続、多くの市民を郷土の名山に導きました。

２０００年に難病の拡張型心筋症を発症。実践活動や関係役職を退き、以後、闘病の傍ら文筆活動に専念。僧ヶ岳や毛勝三山、剱岳などの地誌、あるいは積雪期を発表されました。

近作に『とやま山と人』（２０１６　北日本新聞社）、『追憶の山々』（２０１７　山と峡谷社）などがあります。前者では郷土の登山家、宇治長次郎、田部重治、吉沢庄作らの業績について現代の視点で光をあてています。

特　別　賞

鴨川にもサケを呼ぶ会

魚津市を流れる鴨川は、かつてゴミが捨てられ、生活排水の垂れ流しなどで県内のワースト３に入るほど汚れた川でした。そこで、地元の有志らが、サケを放流しサケが戻ってくるような綺麗な川に戻そうと１９８８年に「鴨川にもサケを呼ぶ会」を結成し、川の清掃活動を始めました。

２００７年までは、毎月第３日曜日に会員や地元の村木小学校の児童も参加して、上流から河口までのおよそ1キロの区間を清掃、また、サケの遡上を邪魔する水草（バイガモ）の除去も行ってきました。川のゴミも次第に少なくなってきたので、２００８年からは、清掃は年５～６回に減らしています。

サケは、魚津市内の小学校に卵から稚魚になるまで飼育をしてもらい、児童らと共に放流しました。サケのほか、ヤマメも放流しました。近年、鴨川はゴミも減り、川沿いを散歩する人の姿も多く見られるようになりました。川沿いの歩道には、エドヒガンザクラを植栽し、また、鴨川の歴史などを記載した看板等を設置しました。

20年間の活動で会設立の目的が達成されたことや会員たちの高齢化に伴い、平成29年に鴨川にもサケを呼ぶ会を解散することになりました。最後の鴨川清掃が11月に行われ、会員・児童らが参加しました。本会は魚が泳ぐ親しみと潤いのある川を取り戻し、綺麗な川を守り続けた永年の活動に敬意を表します。

特 別 賞

中　川　龍太郎 監督

朝日町出身の父を持つ中川龍太郎さん（27歳）が監督を務める「四月の永い夢」が、第39回モスクワ国際映画祭メインコンペティション部門において国際映画批評家連盟賞＆ロシア映画批評連盟特別表彰をW受賞しました。モスクワ国際映画祭はカンヌ・ベネチア・ベルリンに並ぶ４大国際映画祭です。海外では新鋭映画監督中川さんを黒沢明の再来という批評もあり、国際的に注目されています。

この映画は、昨年８月朝日町を中心に新川地区で撮影され、朝日町でのロケーションシーンは作品の重要部分となっています。泊高校でのロケ、演劇部の生徒のエキストラ出演などもありました。中川監督は、これまでも泊高校演劇部と一緒にワークショップを行い、映画製作の楽しさを伝えています。また、朝日町で行った新作映画の上映会では地域住民と交流し、舞台である朝日町の素晴らしさを分かち合いました。

前作の「走れ、絶望に追いつかれない速さで」も朝日町、宇奈月町でロケを行っています。

「四月の永い夢」は昨年夏に朝日町で関係者試写会が行われました。今年春に全国一般公開の予定です。中川監督の今後の活躍を期待しております。

地域社会賞

魚津観光ボランティア「じゃんとこい」

魚津観光ボランティア「じゃんとこい」は、平成10年に結成され、本年度で20周年を迎えられました。

ボランティアガイドのモットーは、“魚津の魅力を伝えたい”と“おもてなしの心を大切に明るい笑顔で迎え、満足して帰っていただくこと”で、会員一同研究や実地研修を重ね、有言実行で歩んで来られました。

また、観光スポットである名所巡りツアーガイドも企画され、市内外からのお客さんから“献身的で明るく親切”であると大変高い評価を与えられています。

現在、活動の拠点を魚津の玄関口である、あいの風とやま鉄道魚津駅前の観光案内所に置き、常駐２～３人で通年開所、年間来訪者は13,000人を超え、魚津のイメージアップに寄与されています。

新川地域の案内や観光ガイドをこれからも継続され、今後も会員育成と研鑽に益々期待し、応援いたします。

地域社会賞

「24時間ぶっとおしライヴ」実行委員会

「24時間ぶっとおしライヴ」は、全国民放31局主催「愛は地球を救う・24時間テレビ」の趣旨に賛同し、同日同時刻に「24時間ぶっとおしライヴ」実行委員会がコラーレで開催するチャリティーライヴです。１９９８年にスタートし、２０１７年で第20回を数えるに至りました。

募金は全て北日本放送を通じて寄付し、「福祉」「環境」「災害援助」の分野で広く活用されます。また、当日お買い上げのドリンクや手作りＴシャツなどのグッズ等の収益も全て寄付しております。ライヴの運営とそれに係わるスタッフ、そして出演者は全てボランティアです。

実行委員会は、毎年５月上旬に立ち上げ実行委員長を互選し、副委員長は委員長が指名しています。週に１回程度の会議を重ね、企画案から実施・運営まですべての分野に携わります。舞台の時間割や出演者の検討、チャリティーグッズの考案・製作、来場者に楽しんでもらえるようにアイディアを出し合い、工作などもします。当日は入場者の受付や募金受付などの接客、司会、音響、照明などの舞台作業も24時間途絶えることなくローテーション割りに従い積極的に行っています。

今回、２０１７年の実行委員はコラーレ職員９名を除いて36名で、ほとんどが新川地域在住の方々です。出演は県内一円からの41団体、出演者総数はのべ約４５０名、入場者数は約2,000人、募金総額は433,604円でした。過去20回分の募金総額は、9,397,673円となりました。市内の募金会場の中でも最も多くの募金をお預かりするチャリティーライヴに成長しています。

コラーレの主催事業ではありますが、この「24時間ぶっとおしライヴ」実行委員会の皆様の熱意と主体的な参画がなければ実施できない事業です。

これまでの20年間の実績を踏まえ、益々の発展と維持を祈念いたします。

地域社会賞

花の森・天神山ガーデン

魚津市小川寺にある花の森・天神山ガーデンは、現在３月中旬～６月中旬にかけて、スイセン、ハナモモ、牡丹、シャクナゲ、シャクヤクなど、まさに百花繚乱、色とりどりの花の競演が楽しめます。魚津市外からも多くの人が訪れ、春の魚津の人気スポットとなっています。

会長 元野清光氏ら会員によって平成21年から維持管理されています。この場所は、以前植物研究者が牡丹等を栽培し、好意で一般に庭を開放していましたが、研究が一段落したことで花木を県外の研究機関に寄附することが決まりました。それを惜しんだ地域のみなさんが存続を働きかけ、ボランティア団体を作り、管理を引き受けました。

会員は、約80名で、富山市、黒部市など魚津市外のメンバーもいます。ガーデン内や周辺雑木林での植栽、下草刈り、剪定、枝打ち等の整備活動を行っています。また、森林資源の有効活用として落ち葉や間伐材の利用にも取り組んでいます。その他、数年に一度ガーデン内で「花のフェスタ」を開催し、飲食・花の販売・郷土芸能などの内容で地域の集いと賑わいづくりにも貢献しています。　平成29年5月に開催された第68回全国植樹祭では、景観づくりの取り組みとして高い評価を受け、ガーデン内で農林水産大臣が記念の植樹を行いました。解散の危機を乗り越え、魚津の新観光名所として盛り上げることで地域に貢献してきた花の森・天神山ガーデンの活動に敬意を表します。

奨励賞

山　下　優　嘉 選手
（黒部市出身、東洋大学）

黒部市出身の東洋大学４年、山下優嘉選手は、大学３年時の去年１月に東京学芸大学で開催された競技会で男子20,000m競歩に出場し、従来の記録を48秒7上回る１時間21分36秒７の日本記録を樹立しました。

実に24年ぶりの日本記録更新で大変注目されました。

元長距離ランナーだった山下選手は富山商業１年生のとき、ケガのリハビリを兼ねて競歩を始め、２年生から本格的に取り組むと瞬く間に高校トップクラスの競歩選手に成長。３年生時に出場した世界ユース選手権大会では、男子10,000メートル競歩で４位入賞しています。

東洋大学に進学後は、世界ジュニア選手権大会の男子10000メートル競歩で4位に入賞するなど全日本インカレや関東インカレ、全日本競歩大会で活躍し次世代のホープの一人として、将来を嘱望されています。

今年３月には、大学生活の集大成として石川県で開かれる全日本競歩能美大会に出場する予定で、卒業後は地元富山に帰って東洋大学ＯＢが経営する東条うどん（富山市）に所属して競技を続けるということです。

２０２０年東京オリンピックへの出場も視野に、今後益々の活躍が期待されます。

青少年育成賞

小 坂 海 翔くん・大 家 健 慎くん
（ソフトテニスペア）

入善町立ひばり野小学校４年生の小坂海翔くんと大家健慎くん（入善ＥＡＳＴクラブスポーツ少年団）は、去年３月、千葉県で開催された「第16回全国小学生ソフトテニス大会」に出場し、ダブルス男子４年生以下の部で見事優勝しました。

２人は、３度目の全国大会挑戦となったこの大会で予選リーグを４戦全勝で勝ち上がり、海翔くんのミスのないショットと健慎くんの打ち込みを武器に決勝トーナメントを制し、日本一に輝きました。

２人が所属する入善ＥＡＳＴクラブスポーツ少年団は２０１２年に創設され、現在小学１年生から６年生までおよそ30人の児童が、インターハイの出場経験がある小坂くんの父小坂晃祥コーチの指導のもと、練習に汗を流しています。

共に勝利をめざし、厳しい練習を乗り越えた思い出は一生の宝物となるでしょう。これからも夢や目標に向かってお互いに高め合い、技術に磨きをかけていってください。２人の今後の活躍に期待し、地域の皆さんで応援していきましょう。

青少年育成賞

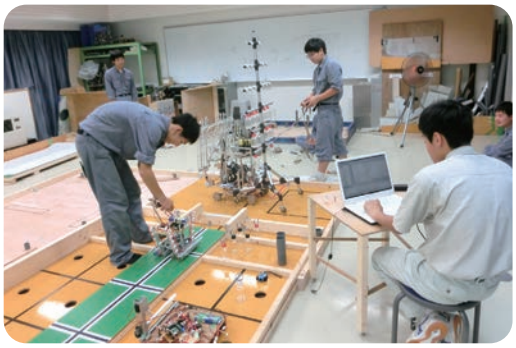
魚津工業高校 機械工学部

１９６５年に魚津工業高校に創部されたものづくり系の部活動が「機械工学部」です。

部員は、３年生を含めて25名。中心となる活動は、富山県ロボット競技大会とマイコンラリー北信越大会への出場で、オリジナルのロボットやライントレースカーを製作するために生徒たち自らで部品・材料集めから設計製作までを行っています。

特にロボット競技大会では、近年好成績をあげていて、一昨年、県大会で念願の初優勝を果たすと昨年も数々の失敗やトラブルを乗り越えて県大会を２連覇しました。

全国大会に出場し、まだ目立った成績を残していませんが、昨年10月に秋田県で開かれた全国高等学校ロボット競技大会では１次予選を128チーム中２位で通過。２次予選で思わぬ事態に見舞われ敗退したものの、富山県勢は一昨年、不二越工業が６位、昨年は砺波工業が３位と上位入賞していて、魚津工業のチームが全国上位の実力を持っていることは間違いないと思われます。

機械工学部の生徒たちは、このほか自らが体験したものづくりの楽しさを地元の子供達にも伝えたいという思いから、黒部市吉田科学館で開かれたものづくり教室に講師として参加しています。

今後、益々の機械工学部の活躍を期待しています。